

学校法人 睦美学園 事業報告

(2023年度)

1 法人概要

①名称

学校法人睦美学園

設立 昭和60年12月23日

理事長 杉本圭隆

②住所等

大阪市阿倍野区阪南町3丁目22番8号

電話 06-6624-0557

FAX 06-6624-0556

ホームページ <http://mutsumi.ed.jp>

メールアドレス kids@mutsumi.ed.jp

③法人の沿革

1923年4月1日	親和幼稚園として開園 初代園長 杉本タツ
1925年3月23日	睦美幼稚園として認可を受ける
1962年10月1日	新園舎 本館 鉄筋コンクリート造3階建 竣工
1965年3月23日	睦美幼稚園 初代園長 杉本タツ 死去 睦美幼稚園 園長 杉本知栄子 就任
1984年12月26日	学校法人 睦美学園 設立・認可 初代理事長 杉本全隆
1985年3月8日	睦美学園 初代理事長 杉本全隆 死去 睦美学園 理事長 杉本知栄子 就任
1987年7月13日	新園舎 別館 鉄骨2階建 竣工
2012年12月23日	睦美学園 理事長 杉本知栄子 退任 睦美学園 理事長 杉本佳隆 就任
2013年4月1日	むつみ幼稚園 園長 杉本知栄子 退任 むつみ幼稚園 園長 杉本圭隆 就任
2014年10月23日	本館 耐震化工事
2016年4月15日	新園舎 新館 鉄骨造2階建 竣工
2018年4月1日	幼稚園型認定こども園に移行 園名を「むつみこども園」に 異年齢保育開始
2022年4月1日	2歳児クラス「あんずのおうち」開始 給食室「おだいどころ」新設
2024年4月1日	1歳児クラス「あんずのおうち」開始

④設置する学校

むつみこども園

設立 大正12年3月23日

定員 138名

園長 杉本圭隆

⑤保育方針

一人ひとりが自分らしく暮らし、遊び、働くために、まちのみんなで考える。
そんなまちづくりに取り組んでいます。

<大切にしている姿>

自分らしくある・自分でかんがえる・夢中になる・クリエイティブである
チャレンジする・おもしろがる・自分たちのまちづくり・いっしょにかんがえる
心地よく暮らす・思いっきり遊ぶ・仕事に打ち込む

⑥園児・スタッフ数の推移

園児数

	2022				2023				2024			
	1号	2号	3号	合計	1号	2号	3号	合計	1号	2号	3号	合計
1歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	10
2歳	6	—	9	15	—	—	15	15	—	—	15	15
3歳	6	9	—	15	16	10	—	26	5	15	—	20
4歳	19	11	—	30	8	10	—	18	10	16	—	26
5歳	18	14	—	32	20	11	—	31	7	11	—	18
合計	92				90				89			

スタッフ数

	2022			2023			2024		
	常勤	パート 派遣	合計	常勤	パート 派遣	合計	常勤	パート 派遣	合計
教員	17	8	25	18 (うち育休2)	8	26 (2)	18 (うち育休2)	9	27 (2)
職員	3	4	7	3 (うち育休1)	8	11 (1)	4 (うち育休2)	7	11 (2)
合計	32			37 (3)			38 (4)		

⑥役員・評議員

役員 理事6名、監事2名（任期：2020年12月23日～2024年12月23日）

役職	氏名	職業等
理事	杉本圭隆	学校法人 理事長
理事	北島孝通	学校法人 理事長
理事	植村まゆみ	認定こども園 副園長
理事	伴現太	一級建築士
理事	永淵泰一郎	大学 准教授
理事	杉本さやか	認定こども園 保育教諭
監事	桑山順二	有限会社 代表取締役
監事	背尾康裕	認定こども園 園長

評議員13名（任期：2020年12月23日～2024年12月23日）

役職	氏名	職業等
評議員	杉本圭隆	学校法人 理事長
評議員	北島孝通	学校法人 理事長
評議員	植村まゆみ	むつみこども園 副園長
評議員	伴現太	一級建築士
評議員	永淵泰一郎	大学 准教授
評議員	杉本さやか	認定こども園 保育教諭
評議員	和田勝己	会社員
評議員	森津誠	臨床心理士
評議員	少路宏美	元 幼稚園 教諭
評議員	杉本勝宏	会社員
評議員	田辺昌吾	大学 准教授
評議員	宗田明子	元 小学校 教員
評議員	市村要	鮮魚店 店主

⑦理事会・評議員会の開催状況

日程	議案・出席者数
2023年5月26日	評議員会（出席評議員：9名）・理事会（出席理事：5名、監事：2名） 1) 2022年度 事業報告および決算について 2) 2024年度以降の事業計画について 3) 2024年度 認可定員減・教育時間変更に係る運営規定（園則）の改訂
2024年3月22日	評議員会（出席評議員：8名）・理事会（出席理事：5名、監事：2名） 1) 2023年度 補正予算について 2) 2023年度 監査報告書の添付免除申請について 3) 2024年度 予算および事業計画について 4) 各種規定（運営規定・就業規則）の改定について

2 評価項目及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
余裕のある保育	<計画>一人ひとりが自分らしさを発揮し、それがかんがえるまちとして機能していくためには、心や時間の余裕は欠かせない。仕事としてだけでなく、人生の一部として、「くらす」「遊ぶ」という要素を含めて、余裕を持つということについて向き合った1年にしていきたい。
	<報告・評価>少なくとも「余裕」とは何なのかについて考えることが増えた1年であった。こどもの気になる姿に寄り添う意識が強いあまりに、みんなを見守れているのか。また、「こどものため」を優先しすぎて、結局一人の大人として余裕をなくしていないか。そもそも「余裕」のある保育をするのは何のためだったか、など、今後引き続き考えていくべきポイントが明確になった。ICTの活用などにより業務の効率化は進んでいるが、それが保育に関わる余裕につながっているのかを常に意識しながら、実践を進めていく必要がある。

<p style="text-align: center;">保育と向き合う</p>	<p><計画>新たな体制で取り組む1年。もう一度、園が大切にしたい保育について共有し、見直していく時期が来ている。こどものどのような姿を大切にするのか。こどもの遊びをどのようにみとり、解釈し、環境構成や関わり方などの計画（週案・月案を含む）につなげていくのか。そしてどう振り返るのか。今まで行ってきたことを深めていくことが大切になってくるだろう。それを個別に取り組むだけではなく、ミドルリーダーを含めたチームとして、いっしょに考えていくことが課題となる。</p>
<p style="text-align: center;">働き方の改善</p>	<p><報告・評価>まちごとだけではなく、ミドルリーダーを含めたチームで保育の計画について考える機会が増えた。また、こどもの姿を遊びマップに記録し、そこから環境構成や次の活動に繋げていくことが増えた結果、遊びにつながりが出始め、結果的に行事の見直しにつながるようになった。一方で、それが保育過程とつながった週案や月案として機能しているとはまだ言えない。今後も継続的に検討が必要である。</p> <p><計画>余裕のある保育を目指す上で、「働くこと＝くらすこと」という考え方を共有していく。具体的には、仕事量やミーティング・環境づくり・書類を含めた時間のマネジメント、副業制度、ノンコンタクトタイムの充実や休憩、残業・有給制度の見直し、スタッフルームの新設など。また、2024年度から16:30までの保育を前提とすると仮定した上でのスタッフ配置やシステムについても検討が必要である。</p> <p><報告・評価>他園への見学や研修から学んだことを踏まえ、1日のスケジュールの中で必要な人員が見える化し、ミーティングや休憩、ノンコンタクトタイムなども盛り込んだシフト管理がスタートした。休憩についてもおおよそ機能しており、16:30までの保育がスタートしてもうまく回っていく下地づくりができた。システムとしては整ったが、休むという意識も含めて、「自分らしく生きる、暮らす、働く」ことに向き合うためには、まだまだ工夫の余地がありそうだ。</p>
<p style="text-align: center;">園庭改造</p>	<p><計画>植樹をすすめ、森のような場所でゆったりと過ごせる園庭づくりを目指す。そのためには、特定のプロジェクトメンバーだけではなく、スタッフ全体の自然に対する意識や理解を高めていく必要がある。また、保護者や地域も巻き込んだ遊具づくりについても検討していく。</p> <p><報告・評価>こどもたちは自然に囲まれた園庭の存在にも慣れ、ゆったりと遊ぶ姿が見られるようにはなっているが、遊びに夢中になるための仕掛けや関わりはまだ足りていない。園全体で園庭を意識するとともに、チームで改善を進めていく必要がある。</p>

<p>アトリエ・サロン新設</p>	<p><計画>こどもがその力を発信し、また、地域の中の居場所となる。そのような地域の接点としてのアトリエ・サロンの新設を目指す。具体的には隣地の空き家を活用し、クラウドファンディングを受けながら、保護者や地域の方に支えていただき、一緒につくっていくことを目指す。</p>
<p>1歳児プロジェクト</p>	<p><計画>2024年4月から1歳児の受け入れをはじめ。そのために必要な保育についての知識・技術やカリキュラム、書類、環境、工事の計画等について、プロジェクトチームを結成し、進めていく。</p> <p><報告・評価>日常の業務がある中で、チームを組んで物事を進めていくことの難しさに直面することもあったが、メンバーのこれまでの経験や、他園での見学で学んだことと、園が大切にしていることを照らし合わせながら、じっくりと検討を重ね、むつまじい1歳児クラスをスタートさせることができた。もちろん、こども一人ひとりの姿に合わせて、今後も継続的に質の向上を目指す。</p>
<p>みんなで育つ</p>	<p><計画>出来上がりつつある組織をより機能させ、チームメンバー間のコミュニケーションがさらに活発になることを目指す。互いの思いを伝え合い、お互いが成長できるようなファシリテーションやミーティングの仕掛け、また、そのようなコミュニケーションが起こりやすい環境づくりなどをすすめていく。また、それぞれのポジションやキャリアを明確にし、報告や相談をするのが誰であるのかを整理する。</p> <p><報告・評価>チーム・ポジションごとに担当する範囲と役割を明確にしたことと、次年度に向けての検討事項が多かったこともあり、コミュニケーションをとる機会や、チーム内で決め、それを共有するという流れができてきた。また、いろんな人が働く中で、思いがうまく噛み合わなかったりした時に、お互いやチーム、第三者が入って話すなど、自分たちで解決するという姿勢も見られるようになってきた。</p>